

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題	
四月十九日 一泊二日で 立山黒部アルペンルートに行った 室堂で一泊。「大谷の雪道」景色を満喫した。 六出―雪のこと 壘嶂―遠い山				絶 ●	室 ●	層 ○	黒 ●	立山黒部	
				景 ●	堂 ○	雲 ○	部 ●		(庚韻)
				山 ○	雪 ●	壘 ●	峰 ○		
				容 ○	道 ●	嶂 ●	頭 ○		
				天 ●	纜 ○	不 ●	六 ●		
				地 ●	開 ○	知 ○	出 ●		
				清 ◎	始 ●	名 ◎	盈 ◎		

仄起式

読 み 下 し 文

その他のメモ			
立山黒部アルペンルートは 本年は 四月十六日 より 開通した。			

絶景の	山容あり	天地	清し
室堂の雪道	纜つと	開始した	
層雲の壘嶂	名を知らず		
黒部	峰頭	六出	盈つる
立山黒部			

作詩日 平成二十八年七月

名前

宇野次郎

語註・典故・作詩メモ

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

結句		転句		承句		起句		詩題
旗	○	栗	○	較手	○	朝	○	
亭	○	賣	○	壕	○	陽	○	
館	●	小	●	善	○	門	○	
裏	●	娘	○	隣	○	在	●	
唱	●	隠	●	娥	○	異	●	(歌韻)
棚	○	粧	○	影	●	郷	○	
歌	○	美	●	多	○	和	○	

読み下し文

作詩日 平成 28年 7月 10日

名前 梅村 郁郎

その他のメモ

栗売りの娘
 朝陽門には異郷の和あり
 較手壕善隣 娥影多く
 くりう おすめ しよら かく
 栗売りの小娘 粧美を隠し
 きえり かんろう ちゆうか うた
 旗亭の館裏 棚歌唱う

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
鬱鬱とした心を表現することの難しさ。				揮 ○	排 ●	窓 ●	蕭 ○	梅天閑詠
				毫 ○	悶 ●	外 ●	蕭 ○	
				我 ○	煎 ○	冥 ○	連 ●	
				句 ●	茶 ○	濛 ○	雨 ●	侵 <small>下平声十二</small> 韻)
				独 ●	心 ○	夏 ●	入 ●	
				閑 ○	未 ●	木 ●	梅 ○	
				吟 ◎	霽 ●	森 ◎	霖 ◎	

その他のメモ

読み下し文				作詩日	平起式	名前
我が句を揮毫し独り閑吟す	排悶煎茶すれど心未だ霽ず	窓外冥濛として夏木森たり	蕭蕭たる連雨梅霖に入る	平成二十八年六月		諸星暢義

青嶽峰三姉妹

ブルースランケン
青嶽峰三姉妹

雪	岩	震	化
雪	岩	震	化
特	稜	三	石
足	瀑	姉	千
乾	布	妹	秋
青	仰	傳	彩
山	天	哀	嶺
嶽	從	史	容
峰			

雪特足の乾青嶽峰

岩稜瀑布天を仰ぎ從う

震三姉妹哀史を伝ふる

石と化して千秋出嶺容を彩る

(14)

平成元年(1989)年三月末にオーストラリアを巡る。ミドニーの西段に位置するブルースランケン国立公園の園内には、稜岩の雄大な景観で知られる。若狭中の白川と姉妹山(Blue Mountains)の姉妹山(Blue Mountains)の景観に魅せられた魔王の略奪を避ける為、咒文をかけた岩と山をまわって、その悲話伝説が残る。

語註・典故・作詩メモ				

結句	転句	承句	起句	詩題
暑・	千。	歳・	無。	
威。	八・	月・	双。	謁 関帝廟 _{一ニ}
如。	百・	空。	武・	
矢・	年。	流。	将・	
遠・	関。	人。	弟・	(元韻)
雷。	聖・	跡・	忠。	
奔。	帝・	喧。	魂。	

神漢連 九詩期会 詩箋 一七言絶句

その他のメモ				

読み下し文				
読み下し文 暑威矢の如く遠雷奔る	読み下し文 千八年の関聖帝	読み下し文 歳月空しく流れ人跡喧し	読み下し文 無双の武将忠魂を弟小	詩題の読み 関帝廟に謁す

作詩日 H28・7・10	平起式
名前 古川 彌	

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ		結句	転句	承句	起句	詩題
煙花 繁華 甘毳 味うまく柔らかな食べ物 煮熟 十分に煮る 魚翅 ふかひれ 瑶樽 良い酒 陶然 心よく酔う	瑤 ●	烹 ○	各 ●	將 ○	飲中華街	(先韻)
	樽 ○	熟 ●	自 ●	煙 ○		
	酌 ●	魚 ○	莫 ●	花 ○		
	盡 ●	翅 ○	驚 ○	巷 ●		
	樂 ●	諧 ○	甘 ○	酒 ●		
	陶 ○	盛 ●	毳 ●	肴 ○		
	然 ◎	宴 ●	饒 ◎	泉 ◎		

作詩日	平起式	名前
平成二八年六月		松本祐輔

その他のメモ

瑤樽酌み尽くす 楽陶然たり	烹熟の魚翅 盛宴に諧い	各自驚く莫れ 甘毳の饒さお	將に煙花の巷 酒肴の泉	中華街に飲す
------------------	----------------	------------------	----------------	--------

通讀東

平起式 「江」韻 名前南上清一郎

読み下し文

題 異国情緒

異国情緒

結		転		承		起	
中	○△	金	△	雅	○△	莫	●△
華	○	港	●	麗	●	驚	○
街	○△	東	40	牌	○☆	日	●△
賑	●	邊	○○	樓	○	本	●
應	●	故	○●	飯	☆	異	●
傾	○	人	●○	店	●	郷	○
缸	◎	步	●●	缸	◎	融	◎
中華街は賑い	ちゅうかがい にぎやま	金港の東邊	きんこう とうへん	雅麗な牌樓	かれば はいろうはんてん	驚く莫れ日本	おどろなかにほん
い	さかづきかたむ	故人と歩けば	こじん ある	飯店の缸	はんとん ともしが	異郷と融く	いまようと
応に缸を傾くべし							

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

結句		転句		承句		起句		詩題
牌 ○		好 ●		小 ●		鱗 ○		
樓 ○		吃 ●		路 ●		鱗 ○		
醉 ●		猪 ○		繁 ○		大 ●		
仰 ●		魚 ○		華 ○		廈 ●		
月 ●		山 ○		過 ●		甚 ●		
光 ○		海 ●		客 ●		琦 ○		
新 ◎		菜 ●		頻 ◎		珍 ◎		

転句最初は「甘栗日商千萬顆」とした↓千萬は多すぎる。次に「好吃好飲無限好」↓これはちよつとオーバーか。「猪魚」は、肉も魚も山海の珍味みんなのつもり。魚翅、紅焼鮑、蝦、鶏、蔬菜...
○鱗鱗...うろこのようにぎつしりと並ぶさま。
○琦珍...めずらしい。 ○猪...豚
○牌樓...市街にたてたやぐら門。ここでは中華街の門。

読み下し文							
牌樓	酔って	仰げば	月光	新たなり	小路	繁華にして	過客頻なり
鱗々たる	大廈は	甚だ	琦珍				
横濱中華街に	遊ぶ						

作詩日 平成28年7月13日
平起式
名前 山口幸雄

その他のメモ
軒を並べる大きな店は 目に鮮やかな中華風
路地へ入れればにぎやかで あちらもこちらも人だかり
ハオチーハオチー肉魚 山海の珍味に舌鼓
酔って帰れば中華門 上に見えるは月の影
・中華街の詩ではなく中華街の宣伝になってしまった。
・鱗は冒韻だが: